

感謝録

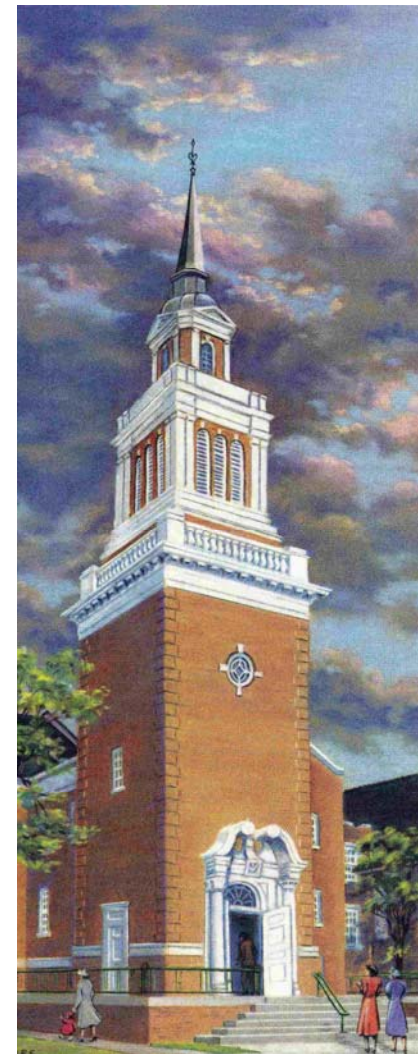
荒井 久和子姉	不破 満雄兄	加納 幸子姉
三縄 博兄	三縄 都美子姉	坂田 淑姉
下竹 博兄	下竹 寛子姉	下竹 祐三郎兄
下竹 由美子姉	武井 里花姉	安達 琴子姉

Scroggins 由紀牧師

記事: 消息

- * 過ぎにし聖日(8月25日)
 - 一 由紀牧師の説教: "御言の務め"と題して、テモテ第二の手紙4章1-5節からでした。人々が健全な教えに背いて、自分たちにとって都合のよい話を、偽教師たちから聞いたがる日が来る故、御言葉を述べ伝える務めを全うしようと教えています。私たちがキリストにあり、キリストに愛されていることを知り、互いに主にあって健全な関係を保ち、御言葉の真理に従う務めについて考えました。
 - 一 聖書研究は、ローマ人への手紙12章3-5節からでした。私達は、キリストの体の一部として、思い上がることなく、慎み深くそれぞれの働きを尊重するべきであることを、パウロは説いています。どうか私たちが、御霊にあって"榮譽に先立つ"謙遜を得ることができますように(箴言18章12節)。
 - 一 日本の大阪にお住いの、安達琴子姉が日本語部の礼拝に出席され、ランチ親睦会にも残られて感謝でした。安達姉は、当教会の存在をインターネットで見つけられたそうです。安達姉は、以前に、Northwestern 大学で音楽(バイオリン)を勉強され、現在は、大阪交響楽団の一員として、バイオリンを弾いておられます。
 - 一 礼拝後、御婦人方の手になるランチを頂きながら親睦の時を持ちました。御婦人方の御苦勞に感謝いたします。食後、ブラジル映画、"汚れた心"を鑑賞しました。これは、ブラジル移民達の間で、終戦後も日本の勝利を信じ続け、日本が敗北したという事実を絶対に受け入れることが出来なかった、いわゆる"勝組"と、敗戦の事実を受け入れた"負け組"との間に起こった悲劇的な抗争を描いた映画で、日本では余り知られていない史実にもとずいたものです。いわゆる"勝組"の数はかなり多かったようで、彼らの抗争はその後10年以上に亘って続いたそうです。
- * 9月7日(土) ヤード・セール 8:00am - 2:00pm
小さい家庭用品を受け付けていますので、出して下さる方は、Ron Barlow兄までご連絡願います。

発行: 2013年 8月 27日 ノースショア・バプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)
Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



週報

第3449号
2013年 9月 1日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

日曜日礼拝順序

2013年 9月 1日 午前11時 南部チャペル

憩いの場

“御国がきますように”

前奏		武井 里花姉
頌栄	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交読文	2 詩篇 2	
賛美歌	79 “ほめたたえよ、つくりぬしを”	
祈りの時		Scroggins 由紀牧師
聖書拝読		飯田 和晴兄
	ルツ記 4章 7-10節	
賛美歌	217 “あまつましみず ながれきて”	
説教	「贖われたルツ」	Scroggins 由紀牧師
賛美歌	242 “「なやむものよ、われに来よと”	
献金		坂田 淑姉
賛美歌	205 (1-2)	
聖餐式		Scroggins 由紀牧師
賛美歌	205 (3-4)	
報告		
頌栄	541	
祝祷		Scroggins 由紀牧師
後奏		武井 里花姉
	(礼拝終了:奉仕開始)	

祈禱・聖書学習会 午前9時45分 109号室
ローマ人への手紙 12章 指導: Scroggins 由紀牧師

交わりの時 礼拝後 南部チャペル

今週の聖句

エレミヤ書 2章 4-13節 詩篇 81篇 1, 10-16節
へブル人への手紙 13章 1-8, 15-16節
ルカによる福音書 14章 1, 7-14節

そこで彼らに言われた。“祈るときには、こう言いなさい。”父よ、御名があがめられますように。御国がきますように”。(ルカによる福音書 11章 2節)

黒人教会に行っていたとき、周りの人たちは、多くのゴスペルソングをそらんじていましたが、子供の頃からずっと同じ教会に通っている人たちには、なじみの歌で歌詞を見る必要もなかったようです。長年同じ事をしていると、習慣になって歌詞も口から出てくるようです。日本語部で私たちがそらんじているのは主の祈りですが、ときどきこれが祈りであると忘れているかもしれません。ただの聖句暗誦のようにして、儀式的に声を合わせている私たちですが、主イエスが“このようにして祈りなさい”といわれたのは、暗誦しなさい、ではなく、祈りにはこういう要素が不可欠である、という意味であると思います。実際毎週、教会では多くの祈りの課題が取り上げられ、信徒たちは心を合わせて祈ります。しかし、自分や他人に関する祈りの没頭する前に、主イエスは福音書の中で、私たちに祈りに関する大事な心構えを問いかけておられます。それは、私たちが祈るとき、何よりも主の御名があがめられて、また心から御国の到来を待ち望む心があるかという問いです。“御国がきますように”、ということばが、主の祈りの中で、日々の糧や赦しの前に持ち出されているのは、私たちの日ごろ考えることの中心が来るべき御国にある、という意味ではないでしょうか。ここをはずしてしまうと、私たちの祈りは人間中心になり、自分たちの生活の事ばかりになります。もちろん、主は私たちの必要をご存知ですが、祈りの基本が神のご栄光であり、来るべき御国にあるという真実は私たちの祈りの方向を変える程の力があります。どうか私たちが日ごろから来るべき御国のすばらしさに思いをはせて、自らの祈りを捧げられますように。{スクロギンズ 由紀}